

『高校生 I C T Conference 2025 in 石川』を開催

～中高生が考える世代を超えたICTやAIの活用と課題解決の提案～

総務省は、令和7年9月15日（月・祝）、金沢勤労者プラザにおいて、高校生ICTカンファレンス実行委員会（委員長：米田 謙三 大阪私学教育情報化研究会副会長）とともに、中高生によるワークショップ「高校生ICT Conference 2025 in 石川」を開催し、金沢市立工業高等学校、富山県立高岡高等学校、小松大谷高等学校及び石川県立金沢錦丘高等学校の4校から14名の生徒が参加しました。

本行事は、中高生がインターネットやスマートフォンについて、これまでの経験や知識をもとに意見を出し合い、世の中の課題解決に有効な活用方法を提案することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築を目指すもので、2015年度より石川県において開催し、今回で10回目となります。

当日は、北陸情報コミュニケーション教育研究会の林 道雄氏の司会のもと、当局の杉本 高一電気通信事業課長による開会挨拶に続き、第一部では、Facebook Japan合同会社 公共政策部 ポリシープログラムマネージャーの栗原 さあや氏から「Instagramにおける安全な利活用推進の取り組み」と題して、オンラインによる講演がありました。

第二部では、参加者を3つの班に編成し、「中高生が考える世代を超えたICTやAIの活用と課題解決の提案 ～偽・誤情報等のリスクを見極め、安全で豊かな情報社会を築くために～」をテーマに議論を行いました。その結果を踏まえ、「国語からAIへアプローチ」、「学生のリテラシーの過信」、「Enjoy ICT!」と題して、各班から発表が行われました。

その後、金沢大学大学院 教職実践研究科の加藤 隆弘准教授が全体を講評し、「ICTやネットワークを活用してこれからの世の中を良くしていくにはどうしたらいいかということを経験した中高生の皆さんが考えることは大変重要で、デジタルネイティブだからこそその発想、感覚や考えていることなど生の声を是非、サミットで伝えてきてほしい。」と参加生徒にメッセージを送りました。



議論する生徒たち

最後に、参加生徒による投票の結果、令和7年11月3日（金・祝）に東京で開催される「高校生ICT Conference 2025 東京サミット※」に、小松大谷高等学校2年の伊藤 愛莉さんが石川開催代表として参加することが決定しました。

代表に選ばれた伊藤さんは「他の班の良かった視点や考え方を自分の班の意見と交えて発表していきたい。」と意気込みを語り、参加者からは拍手が沸き起こりました。

※ 昨年度の「高校生ICT Conference 2024 in サミット」の概要は、次のホームページに掲載されています。

<https://www.good-net.jp/ict-conference/2024/tokyo2024/>



参加者の集合写真